◎授業事後検討会記録用紙

第（４）学年「自然の中の水のすがた」

記録者（　西口なおみ　）

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 内容 |
| 自　評  通町小  梅津先生  グループ討議  Eグループ  Fグループ  指導・助言  教育センター  長谷部先生 | ・指導計画の変更について。別刷り資料にあるように，水を熱したときの水蒸気を学習してからこの単元に入った。この後，水を冷やして氷になる部分を扱って体積に焦点を当ててから「とじこめた空気と温度」「物の体積と温度」の学習をする。  ・考察について。加湿器の勉強ではなく，空気中の水蒸気の勉強。加湿器のおかげで何が起こっていたかを深めたかった。先行授業でも早さのことが出たので，今日も自然な流れで，「なぜ蒸発するのが早くなったのか」という論点でやってみたがどうだったか。  〈成果〉学び合いが活発だった。計画，声がけが綿密。ノートの取り方など，主体的な姿が学び合いにつながった。  〈課題〉まとめがすっきりしない。ただの風を当てた場合との比較があればよかった。水なしだと加湿器は止まってしまうので難しいが。始めと終わりの湿度を測るとすっきりした。考察の部分は，さっと進めてもよかった。他に時間を取れたのでは。  〈成果〉学習訓練，個別指導がよくなされている。自作教材が良い。視点２では，児童の発言を聞き取ってまとめていた。これまでの学習のノートが生かされ，発表しやすかった。生活に身近な加湿器を使っていて良かった。ステンレス皿の使用も良かった。  （課題）教室の温度測定はしなくても良いか。温度計の位置を上下させていたので，固定した方が良いのでは。  　理科専科のハンデを乗りこえて，しっかり授業づくりがされている。子供たちにとって理科が楽しいと感じられる授業だった。教師の思いに対して，子供もしっかり応えようというお互いの信頼関係がある。日々の積み重ねが生きている。  ①視点１について。学習ノートを振り返り，その内容を踏まえて，繰り返し説明したり考えたりすることで，点と点の知識だったものがつながって，思考力が高まっていく。今回の授業においては，「１０月１７日のノートだよ。」，と既習事項を児童が自分で振り返り，自分で記述した内容が説明する根拠になっていた。根拠を示しながら，繰り返し説明することで，児童が思考を深めていた。加湿器という身近な物を使用し，視点を変えて示すことで，児童にとって調べたくなる，不思議な物に変わっていた。表面的な知識ではなく，中身のある質の高い知識の構築につながっている。  ②視点２について。自然蒸発について，初めは５人しか手が挙がらなかったが，少しずつ話す中で，しっかり根拠を持った発言に変わっていった。温度計の使用は，温度と水の状態を関係付けて実験に取り組むきっかけとなり有効であったのではないか。新しい指導要領に向けてのチャレンジがすばらしい。温度を使って考えるということで学び方の質が高まった。  ③単元構成について。蒸発という難しい内容だったが，空気・体積の変化に考えが向かなかったため，本時で押さえたい内容を捉えさせることができたのではないか。考察に至る過程も自然な流れであったと思う。  ④改善点について。加湿器はブラックボックスなので，その仕組みを目で見ることができない。見えない仕組みを想像して問題解決に取り組むのではなく，今日の最後に出した装置を先に出して，仕組みを解明していく方法もあるのでは。  ⑤先生方へ今後の指導について。我々が，今子供たちに伝えているものは将来的にどう役に立つのか，どういうことを身に付けさせたいかを考えて授業に取り組んでほしい。先生がいなくても子供たち自身で学びに向かい続けられるように，より理科が好きになる，質の高い授業を目指してほしい。 |